

地域アート資源の探検
アートツアー@アッポコ

見に行きませんか

ぶどうの天井画を



柏原のシンボル「ぶどう」を天井一杯に描いた素敵景色を見に行きませんか。太平寺のお寺の屋根の修復を機会に住職の奥さんが、一年をかけて一人で制作されたものです。安明寺の天井画の見学と共に、その特徴や技法と制作の想いなどをお聞きします。

「市民と共にアートで切り拓くまち柏原」をめざす「アッポコ」では、地域の新しい文化や芸術の魅力の発見と拡大につなげるためアッポコ・アートツアーを企画しました。喜んでご参加ください。



2017年**11月14日**【火】

午後1時45分～4時
参加無料：申込み方法（裏面）

主催 **アッポコ**

アーツ・プロジェクト・インおおさか柏原
(Arts Project In Oseka Kashiwara)



柏原のぶどうとは、歴史は古く、江戸時代には宅地内の日影樹として栽培されていたといわれています。明治初期に甲州ぶどうの栽培に成功してから改善を重ね発展の礎が作られました。昭和初期には、大阪府のぶどう収穫量、生産量が日本一となり、その三割近くを占めたのが柏原でした。戦後は高度成長の波を受け畑の宅地化、生産量の減少が進み、高齢化に伴う耕作放棄の進展などで全国では7位、デラウェアは全国3位の収穫量の大阪府の中、なお顕在なのが柏原です。(柏原市市広報特集号2017.9)

守り育てる地域の宝

第1話

ぶどう天井画の意義、特徴、技法について

監修者：藤岡雅人(京都の日本画家)



■プロフィール

1960年 京都市に生れる。
1986年 京都精華大学日本画科卒業後、京展市長賞、青垣2001年日本画展大賞、アートビエンナーレ京都大賞の受賞と共に、1994年日本画グループ「尖」結成し、京都を中心に、グループ展や個展を精力的に開いている。
また、日本画家だけでなく、日本画の材料研究にも造詣が深く、関西・西日本の文化財修復などにも関与されている。

第2話

ぶどう天井画の制作の経緯と想いについて

制作者：大橋紀恵(安明寺坊守)



嫁いで約50年、太平寺の見事なぶどう畑が減っていくのが寂しかった。福井県鯖江のお寺の四季の植物を描かれた天井画を見て、私も自分の手でぶどうをテーマに描き上げたいとの想いが加速した。初めて取り組んだ日本画ですが、藤岡先生のアドバイスのもと日本画塾の教室で学び、太平寺の実物のぶどうの萼や実を見ながら1年かけて楽しく描きました。

定員：50人(先着順)参加費無料

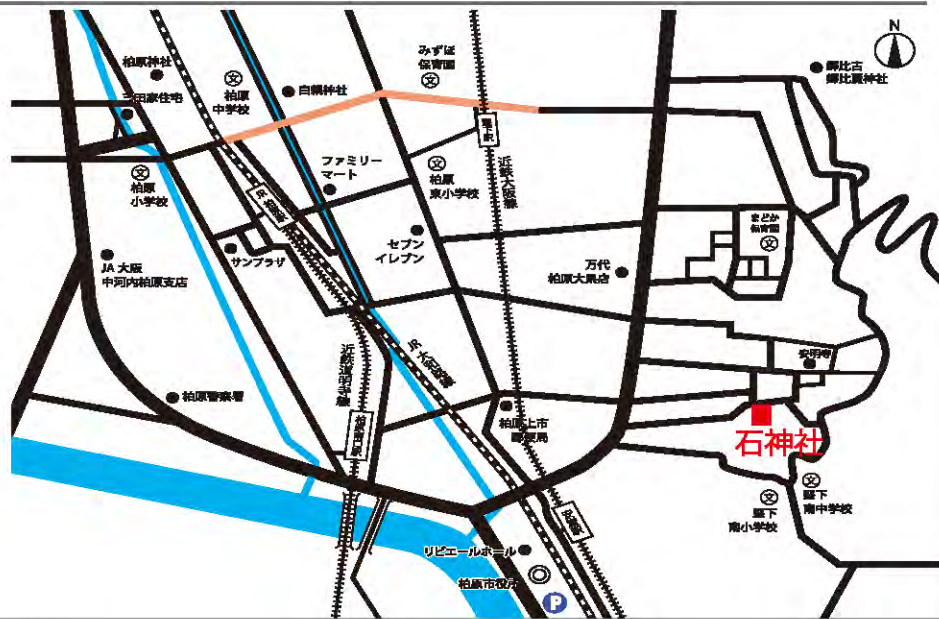
申込方法：11月7日(火)までに、以下の3項目をメール event@appoko.org に送ってください。

①参加者の名前、②電話番号、③住所
定員に達したら受付を終了します。

集合場所：石神社：柏原市太平2-19-13

集合時間：午後1時45分時間厳守

問合せ アップコ事務局
info@appoko.org



■目的

アップコは、芸術文化の振興と地域社会の発展を図り、柏原から多種多様な芸術文化を発信することを目的とする団体です。

■活動

- 柏原ビエンナーレ企画支援事業(これまで7回開催)
- 現代音楽演奏会：柏原の音 音でたどる軌跡(2回開催)
- アートフォーラム イン おおさか柏原(3回開催)
- 造形ワークショップ：どきどきワクワクこどもガーデン(2回開催)
- アートイベント見学会、アートピクニック

■参加のよびかけ

どなたでもアップコに参加できます。詳しくは<http://appoko.org>

